

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和6年4月18日（木）に「教科（国語、数学）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

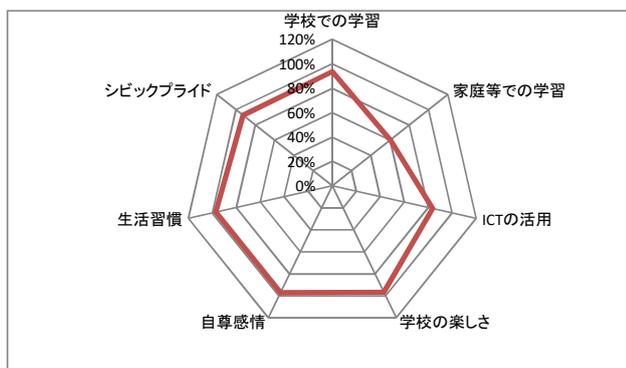
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）	全国平均正答率との比較
国語	・全体的に全国・県平均どちらも下回っているが、話の内容を捉えることができるかを問う問題については、全国平均を上回っていた。	下回っている
数学	・全体的に全国平均を下回っているが、特にデータの活用に関しては大きく下回っている。特に、知識・技能に課題が見られる。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣が確立されている生徒が多く、生活リズムが安定しており、落ち着いて学校生活を過ごしている。 ・携帯電話やスマートフォンの利用について、家庭でのルールや約束を守っている生徒が多く、メディアリテラシーも高い。 ・「自分にはよいところがある」や「よいところを認めてくれている」について、肯定的な回答の生徒が多く自己肯定感や自己有用感が高い。 ・家庭学習については、毎日継続して取り組む習慣が定着している生徒とほとんど取り組まない生徒の二極化が顕著に見られる。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 宿題や課題を中心とした家庭学習の定着を図る取組を継続して実践する。
- 証明や説明など記述式の解答力を向上させるため、内容を要約する問題などを増やした授業展開を計画する。
- 授業でPC・タブレットなどのICT機器の活用については、使用頻度が高いため継続した活用を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 自分で計画を立てて、家庭学習を実践できるような習慣の定着を図る。
- 意識して読書する機会を増やすため、積極的に学校の図書館を利用を促した取組を実践する。
- 地域の行事への関心が高く、地域の方々との交流を通して社会貢献の重要性を理解する。